

## 2023 年度

## 事業報告書

## 特定非営利活動法人フリースクール全国ネットワーク

## 1 事業の成果

## (1) 事業成果の総括

新型コロナウイルスの影響がほぼなくなった2023年度も引き続き不登校は増え続け、小中学校の不登校は30万人に迫り過去最多を大幅に更新、高校の不登校も多い状態が続いている。子どもの自死も500人台で、子どもの生きづらさは一向に改善されなかった。不登校が激増する中でフリースクールも増えており、現在日本には1000を超えるフリースクールがあるとされている。しかし、フリースクールに通う子どもは不登校の増加率ほど増えてはいない。学校以外の子どもの学び・育ちの場としてフリースクールが社会にも子どもたちにも、まだまだ認知されていない。

文部科学省は不登校支援政策「COCOLOプラン」を発表後、民間団体との対話や意見交換を定期的に行っており、COCOLOプランの活用等について模索してきた。しかし、2023年度は十分な活用が出来ておらず、さらなる連携が必要と考える。また、「超党派多様な学びを創る議員連盟」総会では、議連議員および参加した民間団体（フリースクール全国ネットワーク、登校拒否・不登校を考える全国ネットワーク、多様な学びプロジェクト等）の活発な意見、問題提起により、文部科学省の不登校調査についての見直しが行われることとなり、当事者の声をより反映し、不登校の実態に近づく調査に変わることが期待されている。国が不登校支援に民間との連携を進めている中、地方においても不登校家庭への経済的支援に取り組む自治体が増えてきた。しかし、まだまだ不登校支援に対する地域間格差は解消されていない。国や地方自治体との連携を強化し、協力して子どもの学びの多様な機会を保障するためには、「学校以外の子どもの安心・安全な学び・育ちの場」としてのフリースクールの社会的意義や必要性が一層高まってきた。フリースクールの数が増えるだけでなく、質の向上と担保が求められる。

そのような中、2022年度に行ったフリースクール調査の調査結果を周知することを目的に「フリースクール白書2022」を出版した。その調査結果からも、経済的影響でフリースクールの利用を断念している状況、フリースクールの厳しい運営やスタッフの生活苦があらためて明白になった。フリースクールの安定運営とスタッフ待遇の改善、学校外の子どもの安心・安全な学び育ちを保障し広めていくことが必要である。また、加盟団体からメンバーを集い「内部通報相談窓口」を設置した。設置初年度の2023年度は、3件の相談を受けた。フリースクールが子どもや社会から信頼されるために、フリースクール全国ネットワークの存在意義を高め子どもの居場所の在り方に対する問題提起を行う使命を痛感している。2023年度の成果は上記のように総括できる。重点項目における成果は次の通り。

## (2) 重点項目における成果

(I) フリースクールが安心・安全な学び・育ち場として子どもや社会から信頼を確保しつつ、学校外の学びの場としての存在意義を高めていく。

- ① フリースクールガイドラインの周知と設置の推奨
- ② 加盟団体を対象とした内部通報相談窓口の設置・運用

③人権に関する研修をあらゆる機会を活用して実施

④地域ネットワークの構築支援

(Ⅱ) 教育機会確保法の周知を通し、不登校への理解者を増やし、フリースクールの社会的認知度を高めるために中間支援を積極的に行っていく。

- ① フリースクール調査における調査結果を 20 年前と比較し、フリースクールがこれまで何を達成できたこと、およびできなかったことや現状の課題を明らかにし次年度以降課題解決へ向けての取り組みの方向性を検討した。

(Ⅲ) フリースクールの人材育成・養成研修

フリースクールは社会的にもっと存在することが望まれており、そこで働く人材養成が必要である。

- ① 例年に引続き、オンラインでのフリースクールスタッフ養成研修を実施。
- ② 日本フリースクール大会 (JDEC) で、フリースクールの中での学びの実践を広めた。

(Ⅳ) 中間支援組織としての機能強化

- ① フリースクール全国ネットワークのビジョン・ミッションの見直しに取り組んだ。
- ② 加盟団体が子どもの安心・安全な学び育ちの場として機能するために、当団体内に内部通報相談窓口の設置を検討した。
- ③ 加盟団体と理事会の連携および加盟団体同士の交流を強化し、お互いに学び合える組織運営を積極的に進めた。

(2) 運営体制に関する事項

(Ⅰ) 主な会議の開催

- ① 総会の開催 : 2023 年 7 月 16 日 オンラインにて開催
- ② 理事会の開催 : 2023 年 5 月 18 日、8 月 28 日、10 月 23 日、12 月 18 日、2024 年 2 月 19 日、3 月 3 日
- ③ 事務局会議 : 毎週 1 回定例開催

(Ⅱ) 会員状況 (2024 年 3 月 31 日現在)

- ① 正会員 : 80 団体 (▲2 団体)
  - ② 支援会員 : 12 団体 (+10 団体)
- 合計 : 92 団体

(Ⅲ) 事務局の体制

事務局体制 : 事務局 檜山大輔 (有給)

経理 今川将征 (有給)

※事務局会議は、事務局員および理事が参加し、オンラインで開催

## 2 事業の実施に関する事項

### (I) ネットワーキング事業

#### ①日本フリースクール大会（JDEC2023）

2024年3月2日、3日に「JDEC2023ー日本フリースクール大会 in 東京」を開催した。前年度は大阪の会場とオンライン（ZOOM）のハイブリッドでの開催だったが、2023年度は会場開催のみとし、コロナ禍後初のリアルな交流での開催とした。開催に向けた体制は実行委員会形式としたが、例年と違いフリネット加盟団体以外からも実行委員を募集し15名の実行委員で企画・準備・運営を行った。また、文部科学省の後援も取り付けることができた。

今回のテーマは「若手スタッフを応援したい!」「世代間交流／世代を超えた交流」とし、これからスタッフを目指す方、働き始めて困っている若手スタッフが学び、仲間と出会える場にすることを目指し、メイン講演及び11個の分科会および10個の持ち込み企画で開催。

参加者の申込合計は個人58名、協賛団体20団体であった。協賛団体は複数名の参加が可能であり、実際の参加人数を把握することはできなかったが120名程度の参加と思われる。

開催日	2024年3月2日（土）～3日（日）
参加人数	120名
開催場所	国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）
プログラム	1日目 キーノートスピーチ：実行委員会トーク 分科会1：想像ではなく数字で見るフリースクール 分科会2：居場所で働く心理士と語る子どもと関わる中で大切にしていること 分科会3：公民連携～地域間交流しましょう！～ 分科会4：そもそもフリースクールとは 分科会5：全国のフリースクールにおけるヒヤリハット 持ち込み企画1：フリースクールの未来を考える 持ち込み企画2：子どもの可能性を最大限に引き出すとは ～誰にでもある「わくわくエンジン」～ 持ち込み企画3：多様な学びへの経済的支援 その現状および課題 持ち込み企画4：子ども達の主体性を育む教育の本質とは？ 持ち込み企画5：世界のフリースクールに学ぶ・ 世界フリースクール2024大会紹介

	<p>持ち込み企画 6：けん玉で遊ぼう！</p> <p>参加者交流会</p> <p>2 日目</p> <p>メイン講演：子どもたちの学びの転換の現状と展望</p> <p>- 学校に対する違和感と感謝を超えて - （講師：合田哲雄氏）</p> <p>分科会 6：地域でのフリースクール支援を考える</p> <p>分科会 7：フリースクールスタッフぶっちゃけトーク</p> <p>分科会 8：フリースクールでどうやって学びを作っているのか？</p> <p>分科会 9：若手が考えるこれからのフリースクール～事業継承～</p> <p>分科会 10：子どもアドボケイトとは？</p> <p>分科会 11：フリースクールで活用するセーフガーディング</p> <p>持ち込み企画 7：能登半島地震の状況×フリースクール</p> <p>持ち込み企画 8：不登校の当事者から見た学校教育</p> <p>不登校という名前を変えたい</p> <p>持ち込み企画 9：安否確認情報共有システム@ぴおねろの森の実践より</p> <p>持ち込み企画 10：企業ボランティアとフリースクール事業者との協働プロジェクト</p> <p>JDEC ミーティング</p>
--	---

## ②新規加盟団体向けオリエンテーション事業

フリネットに新規に加盟した団体と、フリースクールのあり方やそこでの子どもの学び・育ち、子どもの人権についての考え等を共有し、加盟意識を高めてもらうことを目的に、オリエンテーションを実施した。当初は動画を作成し視聴後に意見交換や共有を深める計画であったが、オンラインでの資料を使った説明とそれをもとにした意見交換を行った。

（2023 年 10 月 28 日オンライン開催）

## ④ フリースクール設立・運営支援

2023 年度スタッフ養成講座参加者数名がフリースクールを設立。講座受講前は自信がなかったが、講義を聞いたり参加者同士ディスカッションする中で、フリースクール設立の意欲が湧き実現できた。実際運営にあたり子どもや保護者との関りで自信を失いそうな時、講座ファシリテーターに相談して、日々の活動に反映できるなどのお声が届いている。月 4～5 回メールによる運営支援を実施している。

#### ④会員交流事業

会員交流事業としては、JDEC 1 日目の最後に交流会を行い、40 名程度の参加者同士、様々な交流を持つことができた。

### (Ⅱ) 交流イベント事業

#### ①夏の子ども交流合宿事業

2023 年 8 月 26 日、27 日に開催された登校拒否・不登校を考える全国ネットワーク主催の「登校拒否・不登校を考える夏の全国大会」のうち、26 日の子ども向けのオンラインイベントを実施した。スプラトゥーンやスマブラなどでのゲーム、お絵描きチャット、プログラミング、UNO 等で交流する他、フリースクールふぉーらいふの OB である芸人のムトコウヨウさんをお招きしご自身の体験を語っていただいた。この講演については親向けイベントに申し込んだ方も参加できるようにした。

これらのイベントは 39 人の子どもたちが参加し、全国の不登校の子どもたち同士の交流が出来た。また開催は全国のフリースクールや正会員団体による実行委員形式で開催され、フリースクールを運営するスタッフ間の交流も出来た。

### (Ⅲ) 研修事業

#### ①フリースクールスタッフ養成講座(オンライン)の実施(年 2 回)

開催日：第 1 期 2023 年 9 月～ 11 月にかけて週末土曜日 計 7 回

第 2 期 2024 年 1 月～3 月にかけて週末土曜日 計 7 回

参加人数：第 1 期参加者 10 名、第 2 期参加者 14 名が受講し、  
延べ人数 24 名

開催場所：Zoom によるオンライン研修

講座内容：1. フリースクールの理念・目標・運営のポイント  
2. 不登校の子ども達の現状と学び  
3. 子どもの参加と自己決定権の重要性、取り組み  
4. 困難を抱える子どもへの対応方法  
5. フリースクールの親・地域とのかかわり方  
6. 非暴力的コンフリクト解決とは  
7. 対話的なコミュニケーションワークショップと振り返り

仕事の事情などで欠席の方には個別に連絡するなど、次回の参加に繋がるよう密な連絡を心

掛けた。今回の講座で大切にしたい参加者同士の気づきやディスカッションは講座が進むに従い深まり、参加者と講師の活発な意見交換により、相互の学び合いが出来たことは、成果としては大きかった。特に第2期の受講者から、事前の資料視聴を前提に参加者同士のディスカッションの時間を多く取って欲しいとの要望があり、講師と受講者との意見交換より、参加者同士の積極的な意見交換が講座受講の充実感に繋がったとのご意見が多く寄せられた。仕事などで講座に参加できない場合も動画配信を行うことで、時間がある時にゆっくり自分のペースで学ぶことができた嬉しい評価をいただいた。今後フリースクールの立ち上げを考えている受講者から、この講座を受講して今までの不安が自信に繋がったとのご意見も多数寄せられた。全国に様々なスタイルのフリースクールができれば、子ども達の選択肢がより一層増えると感じた。第2期講座受講者が2024年4月にはフリースクールを立ち上げ、他数名の方も近い将来立ち上げるとの連絡をいただき、養成講座を開催して良かったと感じることができた。2022年(前年度)の受講者からもフリースクール立ち上げ報告や講座を受講したことにより、家庭内の親子関係が良くなって感謝していますなど、今でも連絡がありスタッフ養成講座はその時だけではなく、受講された方のその後の人生にも良い効果があると感じ、今後も継続する必要性を実感している。

## ②人権研修事業

2024年JDECにおいてヒヤリハット分科会を担当し、各フリースクールで起きているヒヤリハット事例のケーススタディを行ったが、時間が足りないくらい討議され「このテーマで話合える機会が、別にほしい」とのご意見があった。

## ③正会員・支援会員団体が開催する研修等への協力・共催

(a) 滋賀県長浜市「不登校生徒・児童の教育の推進に関わる連絡会議」の研修に講師派遣

- ・「フリースクールに関わる地方行政の制度自治体、他団体との連携」(8/8)
- ・「教育機会確保法とCOCOLOプランについて」(2/16)

(b) 大阪府フリースクール等ネットワークの研修に講師派遣

- ・「政治家・行政とつながるには」(10/15)

## (Ⅳ) 国際交流事業

2023年度は事業計画として一つは、ウクライナのフリースクール支援、もう一つはIDEC(世界フリースクール大会)とAPDEC(アジア・太平洋フリースクール大会)との連携を計画の方針とした。ウクライナのフリースクールとは連絡を取り合い、3月に開かれたJDECの世界のフリースクールの分科

会でウクライナのフリースクールが置かれている状況についても時間を取って報告した。

2023 年度の IDEC と APDEC は同時開催でネパールで 10 月に開催された。2020 年度に開催が予定されていましたがコロナによって延期されたことにより 2023 年の開催となった。ネパールは 2015 年に IDEC の開催が決まっていたのに大地震が起き、開催を延期したという事情もあり、悲願の開催だった。主催のアシュラムスクールを会場に開催され、寝食を共にしながらの大会となった。会期中に教育大臣が訪れるなどネパールでのアシュラムスクールの存在感の強さも感じられた。フリースクール全国ネットワークからは朝倉景樹が参加し、フリースクール全国ネットワークが行い、出版をした『フリースクール白書 2022』についても発表。フリースクール全国ネットワークが本格的な調査を行い、提言を行う活動に大きな反響があった。

#### (V) 調査研究・政策提言事業

##### フリースクール全国調査活用

2022 年度に実施したフリースクール調査の調査結果を「フリースクール白書 2022」として出版（まなびリンク社）。調査結果は PDF にて、調査に協力していただいた団体に報告した。

#### (VI) 自殺対策事業：子どもの命を守る事業

##### 「#学校ムリでもココあるよキャンペーン 2023」の実施協力

実行委員として、代表理事の中村尊と加盟団体の村井 ちゑ子 氏（フリースクール アサンテ代表）が参加。オープニングイベントの企画運営・登壇・進行や広報に取り組んだ。

・「こどもまんなか」ってどういうこと？～居場所づくりの実践から考える(8/20)

#### (VII) 子どもの権利擁護事業

ガイドラインが各団体に浸透し普及するよう情報を広く伝え、各フリースクールに関わる全ての人の理解や認識を高める努力を続けてきた。フリースクール内で起きた人権侵害事案に対して、通報・相談できる人権相談窓口設置に伴い 2023 年度は 3 件の相談メールがあり、加盟団体以外の相談もあったので、ホームページ上で「加盟団体向けの人権相談窓口」であると分かりやすい表現に変えた。内 1 件は弁護士の意見を伺いながら相談者へ丁寧な文章で対応を進めた。相談者から「どこにも相談できる場所がなかったが、思い切って連絡し、このようなお返事をいただくことが出来て心が軽くなりました」など少しでもお力になれたと思う。行政やフリースクール内だけでは対応が難しい事案でも、人権相談委員会として子どもの命を守る対応について一定の成果があった。